

北八ヶ岳蓼科山・春日ルンゼ --- 別荘地のアイスグレンド ---

秋田 誠 (CSS/彷徨倶楽部)

年も押し迫った12月29日、かねてから気になっていた春日ルンゼを訪ねた。翌日は次女が旦那と一緒に帰省するし、妻は正月の準備に大忙しの状況。山に行くのは気が引けたが、年明けに荒川出合のアイスを予定しており、シーズン初アイスがいきなり本番ではさすがに厳しいので、慣らし運転しておきたかった。よって、クリスマス連休は率先して家事を手伝い、妻の心証を良くすることにひたすら腐心したのだった。

春日ルンゼは北八ヶ岳蓼科山北面の標高1,900メートル付近にあるアイスグレンドである。条件の良い年は11月中旬から氷瀑が形成され、八ヶ岳に比べて半月早くアイスクライミングが楽しめることで知られている。春日ルンゼ周辺は蓼科仙境都市と云う別荘開発が行われているが、不景気のせいか開発は中途半端で、道路の除雪が行われない冬季は全くひと気がない。山の斜面に別荘がうら寂しく点在し、ゴーストタウンと云う表現がぴったりだ。最近まで、積雪がなければ佐久から春日温泉を経て鹿曲川林道を上り、ルンゼ出合に直接車を乗りつけることが出来たそうである。車の中から氷瀑を登攀するクライマーを確保したなどと、嘘のような話も聞いている。今は林道入口にゲートが設置され車は入れなくなってしまった。今回は、鹿曲川林道東側の蓼科スカイラインから入り、林道との合流点に車を置いて、春日ルンゼを目指すことにした。このアプローチでは、鹿曲川林道を下って取り付くので往きは楽である。春日ルンゼに2度通っている安斎のアイデアであった。

林道の雪はそれ程多くなく概ね路面は露出していた。所どころ側壁から崩れた岩くずが転がっているが舗装は荒れていない。緩やかな下りである。しかし、帰りはこのだらだらの登りを戻るかと思うと憂鬱になる。気取った名のアソシエイツルンゼを左に見てトンネルを越すと、林道はヘアピンカーブする。この屈曲部に春日ルンゼF1 (羽衣の滝) が15メートルの氷瀑を落としていた。下部5メートルは緩い氷の斜面になっているが、上部は80度から垂直の氷壁だった。一度融けて凍ったのか、滝の上半は表面がモナカ状で、氷の下に流水が見られた。コンディションはさほど良くないが、雪が少なく氷の露出が多い。何より我々の他に誰もおらず、グレンドを独占できるのが嬉しい。



春日ルンゼF1

ルンゼの上部は、小滝2つと緩傾斜の滝があるだけなので、F1にトップロープをセットして練習することにした。まず、攀りやすそうな滝の左に取り付いたが、傾斜の強い上部5メートルがモナカアイスでアックスが決まらない。初アイスで墜落して怪我でもしたら悲しいので、無理せず敗退。次は、滝の右手を攻めた。スクリュウ3本をセットして落口に抜けると、氷漬けになった流木にスリングが残されていた。トップロープをセットすればこっちのものである。後は時間が許すまで垂直な滝の中央部を3人で交代して登った。

日程：2011年12月29日(日) 晴れ

参加者：L 秋田誠、安斎恭一 (以上、彷徨倶楽部)、菅 宏 (比良雪稜会)

タイム：大津4:10 --- 菅宅 --- 木之本IC --- (北陸道、名神高速、中央道) --- 岡谷IC --- (R142) --- 美笹湖 --- 蓼科スカイライン --- 鹿曲川林道合流点 (車デポ) 9:10~9:25 --- 春日ルンゼ出合10:15 --- F1 10:15~13:30 --- 車デポ14:30~14:45 --- 大津20:30